

兼好法師の石標



吉田兼好は晩年、京・西北の双ヶ丘の二ノ丘西麓に草庵を結んでいました。そのためか「徒然草」には、この草庵からすぐの処にある「仁和寺」が度々、登場します。



この石標はその草庵跡を示すものだそうです



この石標が立つ長泉寺は「仁和寺境内」の一番東の端の道を南へまっすぐ10分ほど下がった処です。

双ヶ丘二ノ丘西麓にあったものを江戸時代にこの地に移されたと伝えられます。

また、この長泉寺の境内には吉田兼好の墓があります。



仁和寺



この長泉寺の道路を挟んだ東側には旧立石電機、現：オムロン発祥の本社跡があり、オムロン石碑がみえます

{吉田兼好} プロフィール

出身地：不明

生年月日：1283年

没年月日：1352年（享年70歳？）

鎌倉から南北朝、室町時代の戦乱期に生き、鋭い観察眼により人間社会を描いた「徒然草」は「枕草子」「方丈記」とともに三代随筆として知られます。歌人・随筆家で思想家法師

{時代背景}

- | | |
|------------|--------------|
| 1318年（36歳） | 後醍醐天皇即位 |
| 1332年（50歳） | 後醍醐天皇隠岐に流刑 |
| 1333年（51歳） | 足利尊氏挙兵 |
| 1336年（54歳） | 南北朝分裂 |
| 1338年（56歳） | 足利尊氏征夷大將軍に就任 |
| 1358年 | 足利尊氏没す |

（記：阿部会員）